

# 令和5年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

## 数学科A

### ★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○方程式の移項や、等式の性質を理解している。 ▲文字と式における正負の数や、方程式における文字式の計算など、過去の単元が定着していないことがある。	習熟した内容を振り返る機会を設けるとともに、例題解説では系統性にも着目して指導をしていく。	1年	○定規・コンパスを用いて二等分線の性質を利用して作図をすることができる。 ▲平行や交点を意識した見取り図の作成に課題がある。	語句や定義を繰り返し確認し、習熟度に合わせた問題設定を行う。定期考査の振り返りを行い、課題点を把握させることで個々への学習に繋げる。	習熟した内容を振り返る発問などは継続して行うなど、中学数学の基礎を定着させる機会を多く設ける。
	2年	○基本的な連立方程式は丁寧に取り組み、解答を導くことができる。 ▲左辺同士、右辺同士の加減での符号ミスが抜けない生徒がいる。		2年	○証明の進め方によって合同の証明を行うことができる。 ▲角の名前や合同条件が定着していない生徒がいる		単元ごとの習熟度の違いから、単元内での発問の内容を工夫する。
	3年	○展開では1つずつ積を行い、確実に式をまとめていくことができる。 ▲二次方程式において平方根の中の数を最小の自然数にし忘れるなど過去の単元が定着していないことがある。		3年	○直角三角形に着目して三平方の定理を導き、斜辺を求めることができる。 ▲長さや角度を数学的な定義に基づいて説明することに課題がある。		習熟度の差が大きくならないように、授業展開や発問を工夫する。
思考・判断・表現	1年	○必要な文字を新しく置いて立式を行い、求めた解の吟味を行うことができる。 ▲道のり・速さ・時間や割合など、単元によっては文字を用いた式で表現できないことがある。	必要に応じて、何を求める必要ありそのためにはどのような条件が考えられるかを全体に発問し、問題内容を確認したうえで演習に取り組む。	1年	○図形の移動を作図を用いて表現することができる。 ▲反比例の利用の分野では、何をxとするかの判断に時間がかかる。	数学の系統性を踏まえた問題設定をし、どの単元を用いるべきかを判断させる。ICTや実物教材などを通して視覚的な情報を基に解決を図る。	何を問われているかを意識させることで、立式や解法を安定して導けるように指導を行う。
	2年	○小数や分数を含む連立方程式について、必要な処理を判断することができる。 ▲数の性質の証明では、解答の手順やその内容について正しい表現ができず空白の解答になってしまう生徒がいる。		2年	○合同な三角形の等しい角や辺を用いて証明をすることができる。 ▲性質の証明で書くべき内容が浮かばない生徒がいる。		数学の系統性を踏まえて発問を行い、白紙回答の内容に個の目標に応じた解答が出来るように指導をする。
	3年	○2次方程式の内容によって、因数分解・平方完成・解の公式の使い分けを判断することができる。 ▲求めた解に対して、その正しい変域を判断することができない生徒がいる。		3年	○立体の辺を平面で表現し、三平方の定理で求めることができる。 ▲円と相似などの複数の単元がまたがる問題で必要な情報を判断するのに時間がかかる。		無理数や空間図形などのイメージしにくい単元をICTや実物教材を用いることで視覚化し、思考力を深める。
主体的に学習に取り組む態度	1年	○問題に対して習得した内容を用いて取り組む様子がある。	習熟度別プリントを用いて、生徒それぞれの目標に繋がる指導を行う。教えあい、グループ活動を通じて自分の意見を相手に伝える場面を設定する。	1年	○グループで協議をし、相手の意見を取り入れつつ自分の考えをまとめる姿勢がある。	習熟度別プリントを用いて、個に応じた指導を行うとともに、教えあい、グループ活動を通じて自分の意見を相手に伝える場面を設定する。	必要に応じて算数分野の振り返り学習も交えることで、個に応じた指導に繋がる工夫をする。
	2年	○正解した生徒が教えあいに参加するなど、問題に対して意欲的に取り組むことができる。 ▲前時の内容が定着していない生徒がいる。		2年	○類似問題を既習事項を参考にして取り組む姿勢がある。 ▲前時の内容が定着していない生徒がいる。		単元ごとにある生徒の主熟度の差は理解し、教えあい学習を行うことで学習する姿勢を養う。
	3年	○途中式を丁寧に書きだして取り組むことができる。誤りがあったらすぐに訂正して解答へと繋げようとする意識がある。		3年	○既習事項をもとに問題に取り組み、グループで協議し解決しようとする姿勢がある。		学んでいる内容がどのように活用されるのかを説明することで、継続して学びに向かう姿勢を養う。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題	
・生徒の主体性を育む授業 ・地域や小中との連携を生かした取組	・解答を確認する際には誤っている箇所を指摘して再び自分で考えるように指導する。 ・得意な生徒が苦手な生徒に対して教えることで、自分の考えを発信する場面を設定する。		・何度も解答をして生徒が正解する機会も増えてきている。 ・教える生徒と教えられる生徒が固定化している。	・関連する単元を振り返る発問をすることで、見直しすべき内容を再確認させている。	・発問を全体や個人に多くすることで生徒が正解をする場面が増えている。	1年間を通して行ってきた単元を振り返る発問や、個別採点で個に応じた指導は来年度も継続する。単元導入後の振り返りを更に重視する。	